

交わる言葉

皆さんは誰かに指示をされて嫌な思いをし
たことはありませんか。また、人に注意をし
たけれども、その内容があまり伝わっていないか
ったという経験はありますか。中学三年生
になり、日常生活のさまざまなことに意見や
自分の考えを持つようになった今、ふと心に
引っかかる出来事がありました。そこで、そ
の出来事をきっかけに、言葉とコミュニケーション
シヨンについて考えてみたいと思います。

ある日、母と一緒にスーパーで買い物をし
ていた私は、通路を走ってきた三歳くらいの
男の子とぶつかりそうになりました。私と母
は慌てて端の方へよけたのでぶつからずに済
みました。が、後を追ってきた男の子の母親は
「すみません」と私たちに頭を下げたあと、
男の子に「こら、走っちゃだめでしょ」と言
いながら去っていきました。私は、この一言
に違和感を覚えました。

この違和感とはいったい何なのか。私は男

の子に対する母親の注意が、果たして最も適切な言葉だったのだろうか、ということに気づきました。そこで、保育士の経験がある母に、小さい子供に言葉をかけるときに気をつけていたことを聞いてみました。すると、子どもが危険なことをしようとしたときは「してはいけない」というような否定的な言い方ではなく、具体的に「こうしようね」と子どもにも分かりやすい言い方をするように心がけていたと言われました。例えば、子どもが道路へ飛び出そうとしたとき「飛び出しちゃダメでしょ」という言い方では、子どもはなぜ飛び出してはいけないのかを理解するのに時間がかかり、注意がうまく伝わらない場合があるのだそうです。その場合、子どもはど

うすればいいのかわからずにそのまま道へ飛び出してしまいう危険性があります。このように、特に小さい子どもが相手の時は、言葉の選び方、伝え方に注意する必要があります。相手に与える印象に

ついても考えてみました。冒頭でも言いました
たが、誰かから指示を受けて嫌な思いをした
人は、案外多いのではないでしょう。例え
ば少し急いでほしいと伝える場合、「○○さ
ん、もう少し急げるよね」と言うのと、「○
○さん、もう少し急いでもらってもいいかな
」と言うのでは、聞いた側の印象はどちらの
方がいいでしょう。私は前者の言い方から
は嫌味のような悪い印象を受け、あまりいい
気がしません。一方、後者の言い方は「いい
かな」と依頼するように言っているので、言
われた側も受け入れやすいように感じます。
このように、同じ内容でも言い方ひとつで相
手に与える印象は良くも悪くもなり得るので
す。

確かに、全ての人が小さな子どもと接した
り、誰かに指示をしたりするとうわけでは
ありません。時には言い方を無視してでも伝
えなければいけない場面もあると思います。
しかし、将来自分自身が親になったとき、ま

た、親でなくても目の前の子どもが危険な状態の時に、言い方のせいで伝えたいことがうまく伝わらず、事故が起こってしまうことは絶対にあってはならないことだと考えます。また、家庭や学校、職場などで人間関係を構築していくうえで、コミュニケーションをうまくとっていくことは誰にとっても必要なことだと思えます。言い方を見直してみることで関係がよくなったり、パワーハラスメントのような問題も減らせるかもしれません。

私たちは言葉とともに生きています。だからこそ相手にとって適切な言い方、伝え方をしているかを見直し、日頃から意識して話すことが必要だと思います。SNSが発達し、人と直接会って話す「会話」が減りつつある現代だからこそ、言葉を大切に扱いましょう。そして、もっとコミュニケーションを楽しんでいきましょ。